

新しい『皮膚病診療』

齊藤 隆三

新しい年を迎え、『皮膚病診療』はrenewalしました。読者の皆様は本誌を手にとって、変わったと驚かれていることでしょう。41年間にわたって体裁を変えることなく発行してきた本誌は、令和になってより内容を豊富にし、見やすく、読みやすい雑誌にする必要性を感じるようになりました。昨年来、編集部でどのような雑誌にしたらよいかについて、アンケート調査、各種雑誌の購読傾向の調査などを加えて検討を重ねてきました。本誌を立ち上げた安田利顕先生の創刊号でのeditorialに書かれているように、「皮膚病をみる臨床医に役立つ情報誌としての役割を中心に置く」という基本方針は変えることなく、その周辺の話題も含めて読者に受け入れられるような雑誌にすることが決定されました。そこで、第42巻の始まるこの号より思い切って変更することにしました。サイズが従来のB5版からA4版になり、大きくなりました。本棚に並べている方にとっては、大きさの違いに違和感があるかも知れません。表紙もこれまで使用されていた様式を一変しました。表紙にその号の目次を入れており、表紙をみることで、ひと目でその号のおおよその内容を知ることが可能になりました。症例報告の形式も読みやすいように変え、版が大きくなったことで、文字はゆったりと読みやすくなり、写真は従来のものより大きく入れるように配慮しました。そのためには執筆される諸先生におかれましては症例報告をされる際にきれいな写真を撮っていただき、ここをみて欲しいといった特徴的な症状がわかる写真を提出してくださるよう、さらに投稿規定に沿っての原稿作成をお願いいたします。

雑誌の構成に関しては、臨床に直結した症例報告が中心となることは変わりませんが、その前後に皮膚疾患との関連性はなくとも、臨床の場でしばしば問題となる医療訴訟、ヒヤリハットなどの話題、日常の診療での悩みごとなどなど、臨床に役立ち、読み応えのあるさまざまな分野からの情報提供をするように心がけております。先生方からも取り上げて欲しい話題、内容などぜひご意見をいただき、それらに対応するような項目を入れることができればと考えております。

雑誌離れがいわれている昨今、ぜひ本誌を手にとって、日常診療に役立てていただけるようお願いするとともに、今後とも日常診療の中で、皮膚疾患を中心にして臨床医に役立つ情報を提供できるように、編集部ともども努力いたしますので、忌憚のないご意見をいただき、皆様方のご指導、ご叱咤を引き続きよろしくお願いいたします。